



# 井の頭自然文化園開園100周年カウントダウン新聞

25号  
2015年11・12月号

2015年(平成27年)11月1日

●編集・発行  
いのきちさん編集委員会  
編集長 川井信良  
東京都三鷹市上連雀 1-12-17  
株式会社文伸 発行  
電話 0422-60-2211  
FAX 0422-60-2200  
メール inokichi@bun-shin.co.jp

●協力  
東京都西部公園緑地事務所  
東京都井の頭自然文化園  
井の頭恩賜公園100周年実行委員会  
NPO 法人みたか都市観光協会  
一般社団法人武蔵野市観光機構

●制作支援  
株式会社文伸 / ふんしん出版

井の頭恩賜公園  
開園100周年まで  
あと1年6ヶ月

ツブ助が恐る恐る目をこらすと、黒い影は井の頭公園を根城にしている狸おばさんでした。「もうすぐかいぼりが始まるぞっだよ。池の水がどんどん無くなるから、どこか避難した方がいいよ。アオサギ爺さんに相談して「らん」と教えてくれました。「かいぼりって何だろう？」ツブ助には分からない事ばかりです。

絵せのうさこ 文瀬能けい子

せのうさこ 1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。瀬能けい子さんは母親。

INFORMATION 2015年11~2016年1月

## 井の頭自然文化園

●新春イベント 2016年1月2・3日  
新しい年を迎えるにあたって、2016年の1月2日・3日は、園長と一緒に動物園をめぐる動物園散歩やおみくじを実施します。それ以外にも、楽しいイベントを計画中。詳細はまだ未定です。ホームページ等をご覧ください。



## ●飼育係のいきものガイド

飼育係が担当動物についてお話しします。担当する飼育係しか知らない動物の特徴やエピソードを聞くことができるかも？



【実施日】  
毎週日曜日  
【場所・時間】  
実施する場所と時間は毎回異なります。お問い合わせください。

## 井の頭恩賜公園

【ネイチャー☆プログラム】次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

- あおぞら実験室(井の頭池付近) 11月1日(日)、12月6日(日)
- グリーンバード(井の頭池付近) 11月15日(日)、11月29日(日)、12月13日(日)、12月27日(日)
- どんぐり広場(御殿山広場) 12月3日(木)
- ツリー☆マジック(第二公園) 11月21日(土)、11月22日(日)、11月23日(月)、12月23日(水)、11月3日(火)、11月14日(土)、11月15日(日)、11月21日(土)、12月19日(土)
- ツリートレック(第二公園)

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.i-np.jp/index.html> に載せます。

## 井の頭かんさつ会

- 第127回「果実と種のすべて」 11月15日(日) 10:00~12:00
- 第128回「生き物の冬越し」 12月13日(日) 10:00~12:00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP <http://www.kansatsukai.net/> に載せます。

1級渡邊安浩のいのけん受験講座 答え合わせ

A1. ① 渋沢栄一、② 井之頭学校  
A2. 藍藻 または、シアノバクテリア A3. アオキ

## 井の頭自然文化園の動物たちと飼育員 その6



ツルと聞けば誰もが知っている存在のタンチョウ(丹頂)。名前は「赤い頭」という意味で、羽毛のない頭頂部からは、くっきりと赤い地肌がのぞきます。井の頭自然文化園にはオスとメス1羽ずついて、見た目には区別が付きません。身長約130cmの優美な立ち姿や、昔話の「鶴の恩返し」などの印象から、たおやかな性格を想像してしまうけれど、「抱卵中のオスは凶暴なんです」と飼育員の野本寛二さんは打ち明けます。

今年の春、2羽は同居を始めて、2つの卵が産まれました。有精卵かどうかを確かめるために、野本さんは何度も巣に近づこうとしましたが、「蹴られたら怪我をするし、オスは首を伸ばして、私のひたい辺りにくちばしを向けて威嚇するんです。掃除もなかなかできなくて、オスが卵を温めているすきに、巣から離れたところをささっと…」とトホホ顔。小屋の前を横切りただけでも、わざわざ遠回りをするほど、野本さんはオスを怒らせないように気遣ってきました。

転卵したり、温めたり、2羽が交代しながらかいかいしく卵を世話する様子は人気を集めました。ふ化する目安の35日を過ぎても変化がなく、けっきょく無精卵だったことがわかりました。2羽の相性はよく、いままも仲良く同居しています。

小田原 澤 (おだわら みお) 編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

25 今月の はな子

はな子の寒さ対策

猛暑だったあの夏が幻だったかのように涼しくなってきました。朝晩は長袖の服でなければ風邪を引いてしまいそうです。

井の頭自然文化園では、はな子の体調管理に万全を期すため、すでに暖房を使用し始めています。設定温度を23度とし、過ごしやすい温度になるように気をつけています。

いまはまだ、電気ファンヒーターを使用していますが、もっと寒くなると、強力なガス遠赤外線ヒーターを使うようになります。天井のファンは、上にたまってしまふ暖かい空気を下に送り込むのに有効です。

そして、寒くなって来たときに気をつけなければならないのが、寒暖差です。朝、運動場に出すときには、暖かい室内から急に外に出ると温度差が激しいときがあります。そこで、朝一番に室内展示場のシャッターを開けて、外と中の温度差が無いようにしています。ちょっとしたことですが、とても大切なことなのです。

(井の頭自然文化園 教育普及係 大橋直哉)



その25 トキワツユクサ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 (たなかとしあき) 井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。



トキワツユクサ(5月)

## 「1×1運動」開始

井の頭池の一角「お茶の水」のツツジを覆い尽くしていた草です。みずみずしい葉と可憐な花が歴史ある場所にふさわしいと思われたかもしれませんが、じつは昭和初期に渡来した、南アメリカ原産の外来種です。外来生物法ではノハカタカラクサという名前で「要注意外来生物」に指定され、環境省が今年3月26日に発表した「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」にも「重点対策外来種」として記載されています。(このリストの策定により、外来生物法の要注意

外来生物は発展的に解消されました。)我々は常緑のツユクサだとすぐ分かるトキワツユクサという別名を採用しています。地面に茎を這わせて一面に広がり、冬も枯れない葉が光を遮るので、他の植物が生えられません。お茶の水のツツジも瀕死の状態でした。庭のグラウンドカバーとしては優秀ですが、自然界に逸出すると植物の多様性が大きく損なわれます。お茶の水の一角にはこの草が広く繁茂しているため、林床は単調です。園内のあちこちにも見られ、広がりつつあります。お茶の水のものは結実しないタイプですが、種子ができて分布拡大が速いタイプも井の頭公園に分布しています。

根が浅いので除草は容易ですが、根絶するのは簡単ではありません。茎がプチプチと簡単に切れるため、かけらが残りやすく、その節から根と枝が出て再生します。茎の一片も残さないよう丹念に拾い、その後も時々見回って、再生していたら抜き取ればよいのですが、遠くて広い雑木林では無理かもしれません。

井の頭公園はもう少し目が届きやすいので、我々は外来魚調査活動のついでに、有志が1回に1m×1mの区画ずつ、30分ほどかけて丁寧に除草する試みを始めました。そんなペースでは公園全体の除草はとても無理ですが、池の外来魚問題が今では広く認識され、解決への大きな流れができたように、外来植物問題にも理解と協力が広がることを目指します。



再生中の一片

2回目のかいぼりの準備が始まっています。初めてかいぼりをする弁天池は11月から、2回目となるその他の池は1月から水が抜かれ、すべての池の水が無くなる時期もあります。カイツブリファンには淋しい冬になります。かきぼり後の春には在来生物が大量に発生するので、カイツブリたちも戻ってきて、池は再び賑わうことでしょう。前回は外来魚を除去しきれなかったため、楽園は半年も持ちませんでした。その反省を今度は生かしたいものです。



岸辺のカイツブリ

井の頭かんさつ会 田中 利秋 <http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/>

25 春を待つ冬

「楽園はよみがえるか!」

カイツブリ通言

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる。小さな水鳥です。池や川にカッパルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。



写真 古賀 親宗 (こが もとのり)  
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

江戸っ子好みの紫染めと井の頭池との深い縁

前回に続いて石灯籠のお話です。今回取り上げるのは、通称「紫灯籠」。弁天堂正面の石階段を大盛寺に向かって上りきったところに、左右に一対置かれています。基礎の石に、武州五日市、下総船橋、上州高崎など広域に渡る地名とたくさんの方が彫られています。灯籠を寄進したのは、どんな人たちだったのでしょうか。



▲紫草の花は白。染めには根を使う



▲ここから降りると弁天堂正面という場所にある「紫灯籠」

「紫灯籠」に刻まれている寄進年は、慶応元年（1865）。前回ご紹介した「日本橋」の石灯籠が寄進された年の32年後にあたります。台座には「紫根問屋 紫染屋 発起世話人 神田鍛冶町二丁目 大崎屋由兵衛 鎌倉河岸 伊勢屋卯兵衛 麹町二丁目 伊勢屋重兵衛」の文字が今もくっきりと残り、やはり江戸市中の商人が中心となって寄進したことが分かります。江戸時代、松庵（現・杉並区松庵）の杉田屋仙蔵という人が、染めの本場の「京紫」に勝る紫染めを目指して工夫を重ね、井の頭池の水で布をさらして成功したのが「江戸紫」とも伝えられています。この杉田屋の繁盛によって、近隣はもとより所沢、川越に至るまで紫草の栽培が広まったともいわれます。地域で育った紫草と良質な湧き水があって、「江戸紫」は実現されたのです。それに、紫染めに関わる人たちは、井の頭の水源を守る弁財天を信仰していたのでしよう。発起世話人の名が刻まれた台座の一段下の基礎の部分には、下駄屋、糸屋、綿屋、米屋、油屋、灰屋の名が並び、紫染めに関わる業種が多かったことが推測されます。「江戸紫」といえば、歌舞伎の助六の鉢巻の色として今なお知られますが、その江戸っ子の「粋」を象徴する色は、多種多様な職種の人たちの力の結晶だったのです。寄進された慶応元年の3年後、時代は明治となります。そして、あらゆる産業が、海外の先進技術を取り入れて急速に変化していきます。染め物の世界でもほとんどなく化学染料が広まり、伝統的な植物染料が衰退していくことになりました。ここに名が刻まれた一人ひとりの人生は、動乱の社会の中でいかなる変遷を辿ったのでしょうか。調べてみてください。

安田知代

安田知代（やすだ ちよ）  
編集者・ライター。井の頭公園「まるごとガイドブック」『懐かし吉祥寺 昭和20・40年』編者。

私と井の頭公園 その25

いのけん1級『チームあか井の』旗揚げ

岩崎孝子（いづみ けいこ）  
三鷹市在住

第4回井の頭公園検定（通称いのけん）試験が12月に行われる。3級2級試験は公式問題解説集をしっかりと読むと合格できるのだが、1級は難関である。今まで106人挑戦したが、認定されたのは13人だけだ。この1級合格者たちが「井の頭公園の魅力」を伝える伝道師として動き始めた。「チームあか井の」の旗揚げである。「あか井の」のあかは1級バツジの色。井は井の頭の井。初めての取り組みは10月18日の『井の頭1000登』で行った「いのかしらクイズ」の開催。そのメンバーのひとり岩崎孝子さんに登場していただいた。

書店でいのけんの公式問題解説集を見つけ、検定を受けたら2級に合格して、それなら1級もと挑戦したのです。そうしたら1級も合格し、そのご褒美のような1級合格者の特別ツアーがあり、これには感動しました。かいぼりで水がなくなった井の頭池に降りたり、工作室や西望の作品展を見学したり、普段経験できないことを体験し、のめりこんでしまったようです。



「いのかしらクイズ」用に制作したパネルをバックに

私は三鷹生まれの三鷹育ちで、今も下連雀に住んでいます。小さいころから自然文化園の熱帯温室が大好きで、良く写生に行きました。ですから温室が取り壊された後の半年間はショックで文化園に行くことができませんでした。小さいころから空気のよう存在していた公園が、私にとってはとても大切なものだったので、そのことを教えられたようです。今回『チームあか井の』に参加し、公園の魅力を伝えるのもいいかなと感じたのは、そういう思いが背中を押ししたのかも知れませんね。

（いわさきたかこ）  
聞き手・写真 川井信良

川井信良（かわい しんりょう）  
70年代80年代「三鷹きい」の「またたび」や「みたかきいたか」を発行。

よみがえれ！井の頭池 25

▼腰まで泥につかっの外来生物の捕獲。



井の頭かいぼり隊、アウェイでも大活躍！

10月10日から12日にかけて横浜市鶴見区の三ツ池公園の池で行われた「かいぼり」に、「井の頭かいぼり隊」と「井の頭かんさつ会」の有志と公園関係者合わせて3日間で延べ128人参加しました。三ツ池には睡蓮が茂り、池水は真っ黒な泥水です。腰までつかって歩くのは、かなりの体力を要します。そんな環境の中、井の頭からの助っ人たちは、水をかき出す人、水生生物を捕獲する人と自然に役割を分担し、チームワークを発揮して作業を進めていたそうです。「かいぼり25」から現在に至るまで、外来種駆除の活動を続けてきたメンバーの方々は、着実に経験を重ね、チームワークも深まっています。今回の三ツ池での経験も加え、この冬行われる「かいぼり27」に向けて、スキルもモチベーションもぐんと高まっているようです。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。『いのきちさん』は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は井の頭公園の「いの」、隣接する吉祥寺の「きち」、井の頭池が市内となる三鷹市の「さん」を並べたものです。（奇数月1日の隔月発行です）



募集



お問い合わせ ぶんしん出版  
☎0422-60-2211 (担当:宮川)  
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

井の頭公園の古い写真を集めています

▲昭和25年頃の井の頭池 写真提供：鈴木育男氏  
2017年の井の頭恩賜公園開園100周年を記念して、井の頭公園の今昔を伝える写真集を刊行する予定です。井の頭公園の古い写真をお持ちの方で、写真集に掲載しても良い方はご一報願います。なお、お借りした写真は、スキャン後、速やかにご返却いたします。また、謝礼として、完成した写真集を謹呈いたします。

第6回 1級渡邊安浩のいのけん受験講座

今回は、いのけん1級問題です。（ ）内を正しい文字で埋めてください。

Q1 1905（明治38）年、当時小石川にあった「東京養育院」の院長を務めていた（ ① ）は、普通児童と浮浪少年の施設の分離を東京市会で提案し、一部を御殿山に（ ② ）として移転しました。→①②とも漢字で

Q2 夏の暑い時期に井の頭池の水面を覆い尽くすように浮いていた緑色のものは「アオコ」と呼ばれ、（ ① ）の一種が富栄養化した水中で大発生して浮上したものです。→①漢字で

Q3 ニホンカモシカは木の葉をよく食べますので、ぶらんこ広場のまわりになさとなる（ ① ）をたくさん植えてあります。→①カタカナで

答えは裏面のインフォメーションのところです